

教師の
腕前診断文 | 城ヶ崎滋雄 (千葉県船橋市立夏見台小学校)
イラスト | 吉田朋子

今回のテーマ

子どもの気持ちを察した
声かけのタイミング

子どもは「自分はいいことをしている」と自覚したり、「これはよいこと」と意図的に判断したりして生活していません。だから、先生は子どものよい言動に気づいたら、すぐにほめます。

一方、子どもが悪いことをした時ですぐにしなければいかというと、そうではありません。状況によって異なります。

今回のテーマは「タイミング」です。

1 子どもの気持ちを察する

朝、教室のドアをガラガラと開けるなり、「おはようございます」と大きな挨拶をして、自分の席に向かう子どもがいます。先生はつられるように「田中さん、おはよう」と返してしまいます。

また子どもがやってきたようです。今度は静かにドアが開きます。先生がそちらに目をやると、俯き加減に入ってきたのは佐藤さんです。佐藤さんは挨拶をしないで教室に入ってきました。

Q1
どのタイミングで「おはよう」と
声をかけますか。

- ① 教室に一歩足を踏み入れた時
- ② 三歩目
- ③ 五歩目

「何歩でも構わないじゃないか。子どもが挨拶をしないのなら、先生から先に挨拶をすればいい。そうすれば、子どもは挨拶をする」と思われるでしょうが、このタイミングが大事なのです。

①「では早すぎます。子どもは挨拶をするつもりでドアを開けていません。当然、先生から挨拶をされるのも思っています。心の準備ができていないので、びっくりします。」

③「は遅すぎます。俯き加減で歩いている佐藤さんです。コミュニケーションを取るのが苦手なかもしれません。そんな子どもは人との関わりを避けるために、「俯き」というバリアを張り、周りとの関係を遮断しようとしているのです。」

五歩も歩くと、子どもは、「よかった。バリアで自分の存在が気づかれずにすんだぞ」と安心します。当然、挨拶をしていないことも承知しています。安心しているところに、先生が挨拶をすると、佐藤さんはびっくりします。今度のびっくりは、「しまった。先生は自分が教室に入ってきたのに気づいていたのか。挨拶をしなかったのはまずかった」という後悔のびっくりです。五歩目では佐藤さんに居心地の悪い思いをさせてしまいます。

一番よいタイミングは「②」の「三歩目」です。

子どもから挨拶をするタイミングとしては一歩目が最適です。教室に人がいなくてもドアを開けたら、「おはようございます」と大きな声を出すことで、快適な一日を過ごす『キッカケ言葉(城ヶ崎の造語)』になります。

また、先に登校して教室にいる友だちも、それを聞いて思わず挨拶を返したくなります。教室の雰囲気は爽やかになります。

しかし、そんな元気いっぱいに登校する子どもだけとは限りません。

もしかしたら、親にしかられて登校してきた子どももいるかもしれません。そんな子は、「お母さんなんか大嫌い」とブンブンしながら登校しているのですから、挨拶をする気分にはなりません。うっかり声をかけようものなら、八つ当たりされそうな気配です。

宿題をやっていないので、学校でやるうと思っっている子どももいるかもしれません。そんな時は先生と顔を合わせたくないものです。宿題忘れを知られてしまうからです。

ひよっとしたら、家族の誰かが体調を崩して、寝込んでいるのかもしれない。大事な家族ですから、心配です。

特別な事情がなくても、「誰も教室にいないのに挨拶するのは恥ずかしい」という子どももいます。

このように、子どもはいろいろな事情を抱えて登校します。ですから、一律に「元気よく挨拶をしよう」と要求するのは考えものです。挨拶ができない状況がある子に対しては、「見守る」姿勢が大事です。

三歩目なら教室には人がいることを察します。自分が挨拶をしていないということも自覚し、挨拶をしなくてはという前向きな気持ちになります。そんな時に、先生が「佐藤さん、おはよう」と声をかけてくれたら、丁度よいタイミングとなります。渡りに舟です。

子どもは、先に挨拶をされてしまったという罪悪感を覚えることなく、「あっ、先生、おはようございます」と挨拶ができます。

教師の腕前が試される、学級経営のひと工夫。
ベテラン先生によるケーススタディです。
こんな時、あなたならどうしますか？

2 繰り返りの機会を作る

一時間目にした社会のテストの採点を、その日のうちに終えました。

Q2 いくつかのテストを返却しますか。

- ① テストをした当日
- ② テストをした翌日
- ③ 少し間が空くが、次の社会の時間

「①」は早すぎです。子どもたちの関心事はテストの結果、「点数」です。ですから、子どもたちの気持ちを考えると当日がよいでしょう。しかし当日に返却し、テスト直しをしてしまうと、早く終えたくて教科書を写すだけの子どもが出てきます。テスト直しの目的は、学習内容の定着です。

「③」では間が空きすぎです。子どもは「今」を生きています。子どもにとって、数日前にしたテストは昔の出来事です。そんな状況で返却して、テスト直しをさせても、学習内容の定着は期待できません。

一番よいのは、「②」の「翌日」です。ただし、これにはちょっとした仕掛けをします。

テストをした日の宿題は、テスト範囲の音読にします。これはテストの見直しになります。こうすることによって、その日のうちにテストをふり返ることが出来ます。正解なら喜び、間違えた箇所は正しい解答を音読から学ぶことが出来ます。

ふり返りの機会をもつことで、テストの正誤と点数の予想がつかみます。

翌日、テストが返却されると、真っ先に点数を確認し、解答に目をやります。間違えていれば、「やっぱりそうか。本当は〇〇なんだよなあ」と教科書を見ずにテスト直しができます。



3 忘れることは誰にでもある

一週間のうちで忘れ物が一番多いのは月曜日です。週明けなので、うっかりしているのでしょう。この日も掃除用の三角巾を忘れた子どもがいます。

Q3 どう対応しますか。

- ① 何も言わず、翌日も忘れたら注意する。
- ② すぐに「何で忘れたのか」としかる。
- ③ 明日は忘れないように、対策を子どもと話し合う。

「①」は、翌日には三角巾を持つてくるという「何も言わない」のでしようが、子どもは「よかった、先生にばれなくて」と胸を撫で下ろすだけです。反省よりも、うまく切り抜けたという思いだけが残ります。

「②」は、先生として当然の行為です。しかし、られた子どももそう思っています。しかし、先生と子どもの関係が、これを機に良好になるわけではありません。いきなりしかられると、三角巾を忘れたことではなく、しかられたことが印象に残ることもあります。

子どもとの信頼関係作りを考えると、「③」のように子どもと対策を話し合うのがよいでしょう。

人は誰でも失敗や忘れ物をします。「しかたがない」と失敗は大目に見るようにしましょう。大事なことは、『失敗を糧にすること』です。

子どもにそのことを伝え、帰宅したらどうするかを一緒に考えます。

こうすることで子どもは、「優しい先生だ」と安心し、「対策を一緒に考えてくれる頼もしい先生」と信頼を寄せます。仮に、翌日も三角巾を忘れ、しかられたとしても逆恨みすることなく、素直に反省します。

* * *

子どもの心境は刻一刻と変化していきます。先生の声をかけるタイミングがよいと、やる気が出たり、学習効果が上がったりします。また、子どもとの信頼関係を築くことにもつながります。